

蒲田駅周辺まちづくりタウンミーティングの報告

1. 日 時 平成 23 年 12 月 7 日（水）18：00～20：15

2. 会 場 消費者生活センター 大集会室

3. 目 的

蒲田駅周辺まちづくりワークショップに引き続き、蒲田駅周辺整備計画策定調査研究会座長、東京工業大学中井教授の蒲田駅周辺におけるまちづくりをテーマとした基調講話や蒲田東口地区まちづくり協議会の活動を紹介するとともに、中井教授との意見交換も行いながら参加者のまちづくりに対する機運を高める。

4. 参加者

蒲田駅周辺の在住・在勤者等 計 55 名

5. 基調講話

■講 師：東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 中井検裕氏

■テーマ：蒲田のまちづくりに向けて

■内 容：川崎駅東口駅前広場再編の事例を踏まえ、蒲田駅周辺地区グランドデザインをあらためて振り返り、蒲田のまちづくりに向けて必要なことをまとめた。

6. 蒲田駅周辺まちづくりワークショップの報告

■報告者：蒲田再開発担当課長

■日 時：平成 23 年 11 月 10 日（木）18：00～20：45

■会 場：大田区役所 201～203 会議室

■参加者：町会、商店街、まちづくり団体等 計 48 名

■内 容：蒲田駅周辺整備計画策定調査研究会で検討を行っている蒲田駅周辺の都市基盤①東西自由通路、②自転車駐車場、③駅前広場を主テーマに 6 グループに分かれて作業を行った。

7. 蒲田東口地区まちづくり協議会活動報告

■報告者：協議会会長 藤田静男氏

■テーマ：放置自転車対策

■内 容：1) 自転車駐車スペースの確保についての提案
2) 多様なニーズに対応した自転車駐車場についての提案
3) 放置させない環境整備についての提案
4) 利用者へのルール of 徹底・広報・啓発についての提案

8. 意見交換（要旨）

- Q. 京浜東北線の各駅周辺は似ているということだが、文化・風土はそれぞれ異なる。蒲田の個性、特徴をどのようにまちづくりに取り込んだらよいか。
- A. まちの特徴の感じ方は個人差があり、それらを突き合わせてみるとそれが蒲田の特徴になります。豊後高田の事例紹介。「昭和 30 年代の商店街」をコンセプトに、新しいものを剥がしていくと 30 年代のものを残した普通の商店街となりました。電柱も地中化せず残ったままです。特徴のないまちなみを特徴とする、発想を逆転したまちづくりです。
-

- Q. 川崎駅東口は、駅フロアレベルで高架にし、公道を跨ぐ検討はされなかったか。
- A. デッキということでしょうが京急線の高架があるため無理な面があります。東口の整備では、これからの歩行者動線は、デッキではなく地上の時代と主張しました。また、デッキは建設費・維持管理費がかかります。川崎駅東口は京急高架により駅前広場が囲まれた感じで、広場の端が明確になっており、これをうまく活用しようとして議論しました。既にあるものを作り変えるのは大変だが熱心に議論をすることが重要です。駅西側はデッキでラゾーナ 2 階へつながっていません。全体がデッキレベルの歩行者動線であり東西の性格が違います。
-

- Q. まちづくり協議会の放置自転車の取り組みへのコメントを。
- A. 駐輪とマナーで考えるべきところが整理され感心しました。自転車は推進していく時代でしょうが、全体量をどう考えていくかです。サイクルシェアリングという動きもあるが多くのステーションが必要です。パスモ・スイカの活用もできます。ハード・ソフト・ハート（マナー）を組み合わせるのが良いでしょう。
-

- Q. 蒲田駅前東西共に広場が狭い。まちづくりに活かせるのか疑問である。
- A. 西口は今の広さで考えることができます。東口は、タクシー、バス、一般車に関係するスペースを減らす検討により、歩道部分をどこまで広げられるかです。街区建物については容積などのインセンティブを与え、建替え時に地上部を確保する広げ方もありえます。取り込みたい街区もあります。これらの組み合わせで歩行者空間を改善します。
-

- Q. 東口は特に狭いので、区が土地を買い上げて広場の面積を広げてはどうか。川崎、大井町などの近隣地域との差が広がってきている。区の予算は、空港跡地の箱物建設に投資するのではなく、もっと蒲田のまちづくり事業などに投入すべき。また、行政・住民がお互いに協力することが必要である。
- A. 駅前広場の整備では、地権者の皆様の協力が不可欠です。区は立ち退きを主目的としているのではなく、駅前整備と一緒に取り組んでいただきたいというものです。

- Q. 住民が協力する場合は、建築基準法を緩和し道路を広げるなど、行政ができることを精一杯やるべきである。
- A. 東京都、大田区が所管する部分の整理が必要です。行政への働きかけは、一人ではなく、地域ぐるみで行動することが大きな力となります。隣の人たちと始めていくことがよいでしょう。勉強は専門家がサポートします。
-

- Q. あれもこれも大事だが、蒲田駅前の再開発はどこから手を着けていくのか。
- A. すべてが一斉に進むということではなく、短期・中期・長期というステップで取り組みます。例として、自転車対策は継続して取り組んでいますが、抜本的な対策は不足しており、GDでも地下駐輪場を提案しています。駐輪場だけでなく自由通路や駅前広場を含めた総体的な構想の中で、段階を踏んでやれるところから進めていきます。

9. 自由意見・感想記入票から（要旨）

・川崎、大井町に先行されたと感傷的にならず、大田区の発展と安全安心のまちを構築するために、区民に理解と納得を得るとともに、協働できる環境づくりが始まったことに賛同する。災害・エネルギー・蓄電を考慮したまちづくりを・・